

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171200332
法人名	有限会社 太陽
事業所名	グループホーム ひまわりの郷
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字寄人1997-1 (電話) 0952-26-4302

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(平成 21 年1 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て
------	--------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	無 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要( 3月 17 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	肥前精神医療センター ・ 斉藤整形外科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

見渡せば田畑に囲まれた自然豊かな環境の中、散歩を日常的に取り入れ、ゆったりとした時の流れが感じられるケアが行われている。管理者が地元の出身で、近隣に顔見知りの方が多く、交流においても入居者と地域が自然な付き合いができ、地域密着型としての機能を果たしているといえる。ホームは家庭的で、おやつを毎日手作りするなど、入居者にも好評で楽しみのある生活が窺える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	『共用空間で人の気配を感じながらも、一人になれる居場所づくり』が改善課題となっていたが、全員が集うホールその他、廊下にソファを増やすことで、共用空間の中にも一人になれる場所を確保するなどし、改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目を職員全員で理解する為の取り組みをしている。今回家族との連携について課題があり、全体行事や、外出時には家族への案内状を送付することになった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には老人会会長、地区相談役、区長、職員が出席して行っている。内容として、地域行事への参加や緊急時災害時の協力依頼などである。会議を通じ、地域の認知症に対する理解につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を開催し、意見を言ってもらえる場を設けている。居室の家具の配置に関する意見があり、改善につなげている。面会時にも日頃の状況を話し、関係の構築に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者は地元の出身であり、入居者、近隣共に顔なじみの関係で、野菜をもらったりする昔からの交流が自然に行われている。村祭りなど行事への参加や幼稚園との交流をしている。又地域のボランティア受け入れをしており、高齢者の生きがいづくりの役割も担っている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方とのふれあいを大切にし、入居者の人権を尊重した事業所独自の理念を掲げ、玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議で理念を唱和したり、日々の介護の中で理念の実現に向けて認知症ケアについての指導をするなど、共有しながら質の向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は近隣の出身であり、入居者共に顔なじみの方が多い為、野菜をもらったりする昔からの交流が自然に行われている。村祭り等行事への参加をしたり、ボランティアを受け入れることで地元の高齢者の生きがいつくりとしての役割も担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を全職員で研修し、理解するための取り組みを行っている。これまでに環境への配慮や家族との連携についての意見が出て、具体的に改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会会長、地区相談役、区長、職員などが参加し、地域の行事への参加や緊急時、災害時の協力依頼など、充実した運営推進会議が行われている。運営推進会議を通じ地域の認知症についての理解にもつながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的、又必要時に連携をとりながらホームの運営に努めている。市の地域連絡協議会に参加したり、韓国との交流事業に協力するなど独自の取り組みがある。地域包括支援センターより定期的な訪問があり、相談もしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回家族へ連絡し、面会していただく機会を作っている。連絡時には、ホーム便りや写真とあわせ、個人毎の近況報告の様式を作り、日々の暮らしを理解してもらえる内容を書き込んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見を言ってもらえる場を設けている。面会時にも日頃の状況を伝えて、家族との関係の構築に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にし、職員の配置替等の異動はしていない。離職時にはダメージを防ぐため、自然に受け入れることができるような言葉かけ等の配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修、認知症介護研修会などの外部研修へ計画的に参加し、内部研修はその報告会も含め月1回行っている。日々のケアのありようを管理者が現場に即した指導をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し研修会への参加や情報の交換により、サービスの向上に役立てている。他のホームでの実習も行われており質の向上に励んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同系列のデイサービスを利用後にホームへ入居される場合が多く、馴染みの関係が自然に出来ている。慣れるまでは入居後も、デイサービスへ遊びに出向くこともできるので、地域の方々との関係の継続にもつながっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴等により得意なことを把握し、それが活かせる支援をしている。野菜作り、食事の準備、新聞たたみ、おしゃべり等入居者に応じ小さな役割でも、生き生きと暮らせる為の出番と考え支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントの他、日々の生活での本人の言葉や行動をそのまま記録し、意向を職員が共有するように努めている。ホーム独自で、一人ひとりの気持ちを記入するシートを作成し、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人から意見を聴いて、職員会議の中で介護計画を検討し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごと、又新たな変化が生じた場合はその都度見直しをしている。モニタリング及び評価が2～3ヶ月毎にされており、現状に即して計画作成が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自然環境を活かし、季節に応じて、土筆やわらび菜採り、花摘み等、屋外の空気にたっぷりふれる時間を作り、ゆっくりとした日常を送ってもらっている。受診や自宅への外出など希望により支援している。職員に看護師が多く、医療との連携が充実し、終末期の看護体制もある。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、適切な医療機関を受診できるよう支援している。内科の医師により定期的な往診をしてもらっているが、受診は自由にされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について指針や同意書等の様式を準備している。入居時に説明をしているが、その段階になれば、家族の気持ちに揺らぎも感じられる為、お互いの意見を確認しながら支援している。職員に対し看取りについて勉強会を実施し、細かな指導をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回の研修の折、言葉かけや対応についての内容で認知症介護に関する研修も行い、人権の尊重を重視している。職員より、守秘義務に対する誓約書をもらい、個人情報の保護にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のペースに合わせた支援を心がけ、介護についても一つひとつ説明し、希望を聞くように努めている。職員は時間の制限をせず、ゆっくりとした暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を聞いて献立に反映させたり、それぞれの力量を考えながら準備を手伝ってもらう取り組みをしている。職員も言葉かけなどのサポートをしながら、同じ食事を一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入る順番、時間、気の合う人などと、入居者の希望を聞きながら支援している。拒否がある場合には臨機応変に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるように、個々にできることや好きなことを把握している。計算ドリルが好きな方、塗り絵が得意な方、新聞折、貼り絵、草取り、料理の下ごしらえなど多様な楽しみがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に支援している。午前、午後と回数も多く、又希望があれば外食やドライブ等季節に応じた外出を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、開放している。外出される時には後ろからさりげなくついて行くなど、行動を把握することで対応が出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、その中で避難誘導の方法を学んでいる。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえ、消防署や警察署との連携を図りながら、協力体制を構築されることが期待される。又地域住民の協力を得る為に、自治会や運営推進会議等を通じて協力を呼びかけるなどの働きかけも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の希望を聞きながらホームで献立を立てているが、同系列のデイサービスの栄養士の指導を受け、偏りがないか検討している。食事は毎食、水分は必要時に摂取量を記録している。刻み食など入居者の状態に応じて提供し、季節により山菜の利用など季節感が窺える献立となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、暖簾などで雰囲気づくりに配慮され、家具も家庭的である。入居者により毎月貼り絵を作成し、季節感を出している。新築でもあり清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使用できるように家族に伝えており、自宅より箆笥や椅子、時計など持ち込まれている。神棚を持ち込むなど、個性を尊重した支援が窺える。家族の写真や手作りの作品が飾られ、居心地のよい空間となっている。		